

## 社説

(二)

## 通貨の收縮

經濟社會の前途を察するに甚だ不安心に堪へざるものあり。其次第如何と云ふに一昨年來物價は著しく騰貴し、實業は其平均を失して輸入常に輸出に超過し金利は次第に昇騰して金融逼迫し今日の僅に經過せば他日如何なる變動を見るやも知る可らず元來戰後の經濟社會に於て物價の騰貴するは自然の勢にして其騰貴は敢て思ふ可きに非ず物價一度び騰貴すれば貿易上に輸入超過の實を呈して國中の正貨海外に流出するが爲めに物價次第に下落して遂に平準に歸するは經濟上自然の作用にして甚だ明白の成行なるに然るに我經濟社會の近状を見れば全く自然の作用を欠き物價の騰貴は殆んど底止する所なく何時舊に復す可きやを知る能はず輸入の超過も今年は昨年に比して一層甚だかかる可しと云ふ抑も斯る奇態の生じたる原因は昨年來輸入の超過にも拘らず内國の通貨には毫も變動を見ずして其流通額にして政府が財政計畫を實施するにも亦民間に事業を起すにも更らに餘分の資本を要して金融はます々騰貴しきるを得ず政府が假令ひ銳意外資の移入に勉むるもの之を内國に取寄せて不生產的な軍備の擴張を使用する限りは到底此成行を覺ずる能はざる可し。國內の物價が引續て騰貴する場合には製造家も商賣人も廉價にて仕入れたる品物と高價に賣却するを得るが故に金融の逼迫は製造の原資を得る能はず商賣人は商品の原價促にも拘らず世間に不景氣の嘆聲を聞くふとかかる病源は通貨の膨脹にして物價の騰貴も輸入の超過も金融の逼迫も歸する所は此一事の爲めに外ならず通貨は如くなりとして之に應するの策は如何す可きや。目下の資本に非ず通貨にして如何に膨脹するも形を察して資本がなるかと云ふに於ては金融を緩和ならしむるの効なきは勿論却て物價の騰貴を促し金融をしていよいよ逼迫せしめ前進せず、危機に陥らざるを得ず左れば目下の政策を求ひれば日本銀行が金利を引上げて通貨の收縮を謀るよりも豈なるはなし。通貨收縮すれば物價は自から下落し、輸入貿易の過度は自から匡正せられて金融の緩慢を致し政府の財政も民間の企業も非常の便利を得るやうは、何時か一度は多少の激變あるを免かれず手を携して其變を持つとせば或は恐慌襲来して經濟社會に非常の不幸を見るに反し今日に於て日本銀行が金利を引上げて其變を防ぐが、一方に於ては他日来る可能性を想定して其變を防ぐが、一方に於ては他日来る可し其手加減は一に當局者の伎倣如何に屬するものに

此上なる幸運と云ふ可けれ過般日本銀行が營業法の改革と共に多少金利を引上げたる其眞意の如何は知るに難く、其の輸入に依て金融を緩慢ならしめ得べしとなし。金利の引上を躊躇するが如きは我輩の断じて取らざる所なり。

## ○東京の市政 (四)

## 運送力の増進

道路の破壊は主として往來交通の繁劇なるに由るものにして市中の車輛如何に其數を増すも之を使用するふと頻繁ならざれば道路を破壊せざるは勿論なれども同時に之を駆除せざる限りは物價はいよいよ騰貴し

東京の車輛數は前號に記したる二十八年度までの統計にては敢て驚くほどの進歩を示されども市中の繁団近來著しく進歩したるは主として在來の車輛を使用する度數の増加したるに由るものなる可し尤も此使用の其故は此大都會に來りて住せるとするものは何れも朝夕活潑に運動して生存の競争を爲すものなれば男女共に家に居るふと少なくて外に奔走するもの多ければばかり二十五年度來の市中人口を示せば左の如し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より地方へ往来する人

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

其故は此大都會に來りて住せるとするものは何れも朝夕活潑に運動して生存の競争を爲すものなれば男女共に家に居るふと少なくて外に奔走するもの多ければばかり二十五年度來の市中人口を示せば左の如し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

東京より出る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

の歩くこと大體は車馬の力を假り市中の一隅より一隅へ東奔西走するものなれば將來出入の人員ますく又宮殿に參内するには各外賓の車馬の如きは其の後に其御室の御帶品の如きは其の長煙管なり

の如きは其結果左の如し

東京へ入る貨物重量の記入なきものは順位と知る可し

右の外荷は船及び汽船の出入其數夥しけれども總計を得るの難がちを以て之を欠く但し海上より出する貨物は郵船會社の噸數に比し大凡其三四割に當るならんといふ

右は唯東京市内常住の人員として戸籍登録を経たるもののみにして此外毎年東京へ出入する人數を調査したるに大凡左の如し

## ○朝鮮雜話 鐵軒生

兩種と稱する貨物の外出は船に積空なる中にも大臣の行例は殊に仰山なり冬なれば布片を以て掩ひたる物夏

此表に依りて見れば實物も旅客と等しく年一年に增加

は出入各六百五十萬に近くして其前年度なる二十八年

の合計各四百七十萬なるに比すれば實に二百萬の増加

にして始めて東京に出入する一切の旅客數は一日

に四萬人即ち一ヶ年平均七百三十萬人を爲るべし然るに此四萬の毎日の出入各二萬人即ち合して四萬の旅

客が此埠舎を出入するに停車場又は汽船場まで歩む

は何の用に供す得ず暫くして客を取つて又其一の器あり。屋内は顧客の所落しに附けたる奥に乘り奥丁通例二人乗りより乗る。又顧客の如し不知案内より取出したるはぬ顔を爲し居つて飛んだ夫婦の形少しく奇なれど其他は我邦の巡査と變りなし。又宮殿に參内するには各外賓の車馬の如きは其の後に其御室の御帶品の如きは其の長煙管なり

